

歌手として今出来ること

亜耶



て、テレビカメラも入る大きな大会への出場がきっかけで、それはそれは、想像を絶するようなどとも厳しいレッスンを始まりました。

この立科町に生を受け、立科小学校、立科中学校、そして、高校も地元である蓼科高等学校へ進学し、歌手として上京するまでの殆どの時期をここ立科町で過ごしました。

唄をミュージシャンだった父より習い始めたのが小学校4年生の春先頃からだったと記憶しています。最初の3ヶ月は発声練習のみ。それから徐々に歌のレッスンも受けられるようになりまし。週に一回のレッスンを受けながら、少しずつ地元のお祭りで開催されたカラオケ大会などにもチャレンジするようにになり、段々と範囲を広げ、県内、県外問わず色々なカラオケ大会に出場するようになりました。

中学時代には全国の放送局代表者が集まり唄を競う『長崎歌謡祭』に信越放送代表で出場が決定。長崎県の長崎公会堂に

変わらず唄のレッスンは続けていました。高校に進学した頃には週に一回だったレッスンは週に三回になり、逃げだしたくなるほどの父からの厳しい指導でしたので、学校へ行って仲良しの仲間たちと過ごす時間は私にとって一番の楽しい、そして癒される時間でした。在学当時は必須科目以外の教科

に關しては選択して授業を受けられるようになっており、関心のある科目を学べたことが嬉しく印象に残っております。また、高校三年生の時に制服から私服での登校となり校内がとて新鮮な空気になったことも鮮明に覚えております。強歩大会や修学旅行等、思い出すのは楽しい思い出ばかりで高校生活がとて充実していたんだな、と改めて感じております。

実は、歌手になる!と決意しましたのは高校二年生の秋頃でした。それまではなんとなく、「なれたらいいなあ」程度

に思っており、新たに違う道を志そうとも考えてみましたがこれまで厳しいレッスンを耐え抜いて頑張ってきたものを手放すなんて出来ない。一度しかない人生、ダメ元でもチャレンジしてみたい。後悔したくない。自分の胸に問いかけたとき、そんな強い思いがあることに気がつき、決意致しました。蓼科高校を卒業し、暫くして歌手になるために上京をいたしました。

有り難い事に歌手としてデビューをさせて頂きましたが、決して順風満帆ではないですし、まだまだ道半ばです。応援くださる皆様に支えられ少しずつですが歩みを進めております。現在、東京を拠点として全国色んな場所へ寄せて頂き舞台をつとめさせて頂いております。

本場に多くの皆様との出会いがあります。一人でも多くの皆様に長野県を立科町を知って頂きたい。出来ればお話を聞いたきっかけで旅行などでお運びいただけたらと思ひ、必ず舞台では立科町のことを紹介しております。まだまだ微力かもしれませんが、少しでも歌手という仕事を通して私を育ててくれた立科町に恩返し出来たらと思っております。これからも精進してまいります。

※芸名 亜耶(あや) 現在新曲『罪もどり雨』好評発売中。公式ホームページは『亜耶』で検索



次期記念事業にむけて

副会長 橋詰維文

長野県教育委員会は、今年十月に「学びの改革基本構想」案を発表致しました。

内容は、少子化が進行する中、市街地校は規模を縮小しながら現在の高校数を維持できるが、中山間地の高校は小規模化に拍車がかかり、学習の質を維持できなくなり、更には高校の存続が危ぶまれて来る可能性がある。との内容でした。

中山間地に存立している高校は、小規模ならではの利点を

生かし、地域との連携した教育活動を行い、地域の担い手を育成し、地方創生・地域活性化等、重要な役割を果たす事が可能な人材を育てていくことが必要と考えます。

現在の蓼科高校は、立科町並びに議会、関係行政機関の皆様との絶大なるご支援と校長先生を始め先生方のご努力、更には、両角同窓会長自ら講師を務める「蓼科学」等によって、地域との連携も取られている事などが幸いし、一学年三学級が辛うじて確保されておりますが、今回の改革基本構想の再編基準では、一学年二学級になった時点で種々条件の元、他校との統合・分校化・募集停止へと規定化され厳しい状況が想定されます。

保科五無齋先生から続き、平成三十二年には百二十周年を迎えます。

同窓会としましては、この節目に当たり、平成二十九年度から組織を強化して、県内でも屈指の伝統校を守る為、記念事業の準備を進めて行くつもりであります。

どうか、同窓会皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【事務局(連絡先)】

電話：0267-56-1015
FAX:0267-51-3001
E-mail: Tateshna_hs@pref.nagano.lg.jp